

一年を振り返って 横糸を紡いだ一年

国際ロータリー第2660地区 ガバナー

泉 博朗

(大阪帝塚山RC)



一言でいうと嵐の様に駆け抜けた1年でありました。そしてパストガバナーの皆様、クラブ会長、幹事をはじめ、多くのロータリアンの方々のお力をいただいた一年でありました。ローターアクト、インターアクト、米山奨学生、学友、ローテックス、そして、事務局員の皆様など、ロータリーファミリーの方々のお力をいただきました。まさに、2660地区の力、誇り、素晴らしさを感じた一年でありました。

「糸」という歌があります。縦糸は「あなた」、横糸は「わたし」ということですが、例えるなら、縦糸は「クラブ」、横糸は「クラブを越えた友好」そして、縦糸は「奉仕」、横糸は「親睦」ではないでしょうか。縦糸と横糸を紡ぐことによって2660地区という大きく、丈夫で、美しい布が織りあがれたのではないのでしょうか。

様々な行事が、思い出されます。まず、若手の会員を中心に集まってもらいました。次世代のロータリーを担う若手の会員を中心とし、新人の会員等が多く集まり、次世代を担うためのセミナー、懇親会を開きました。地区会員拡大増強委員会、研修委員会、職業奉仕委員会の皆様には大変お世話になりました。参加者の希望もあり、結果的に4回実施し、お互いに刺激し、若手のみならず、先輩会員、クラブを超えた横糸の繋がりが出来たのではないのでしょうか。

本年度の地区大会は、まだ新しい大阪フェ

スティバルホールで行いました。折角のフェスティバルホールでありますので、記念講演は多くのロータリアンの世代であります小椋佳氏にお願いをいたし、結果として約1900名の参加をいただきました。本年度のサブテーマは「親睦は石垣、奉仕は城」であります。親睦を育むことは、ロータリーの基本であります。クラブの同好会はその役割を担っております。地区大会終了後のフェスティバルホールを、各クラブの音楽同好会に開放すべく公募をいたしましたところ、9つのクラブが参加していただき、大いに楽しんでいただきました。

庄巻は、五月晴れの5月5日に行われましたロータリーフェスティバルでありました。天候にも恵まれ約900名のロータリアン、ロータリーファミリーがロータリーパレードに参加していただき、NHKテレビの取材も受けました。テーマを「考えよう子供たちの未来を」とし、社会問題となっている「危険ドラッグ撲滅」をメインにしたことが、NHK、MBSの取材を受けることが出来たのではないかと考えております。公共イメージの向上に大いに役立った事と、確信しております。自信と誇りを持って、きちっとしたテーマに取り組むことが大切ではないかと感じました。また、街頭募金では、ローターアクトの諸君が、ポリオ募金に協力してくれました。そして、米山の学友達が、ネパール地震災害支援の募金をして多額の募金を集め

ました。インターアクトの諸君は、清掃奉仕としてゴミ拾いをしてくれ、多くの市民から「ありがとう」の言葉をいただきました、なんと素晴らしいことでありましょう。近藤実行委員長をはじめ実行委員会の皆様の献身的な活動によって、多くのロータリアン、ロータリーファミリーの皆様のご理解、ご協力を得て、実に多彩な行事となりました。

また、特出すべきことは、地区社会奉仕委員会とローターアクトの諸君が連携して、年間で500名の献血を集めることが出来たことであります。若き活動力とロータリアンの総合力が力を合わせると、素晴らしい力を発揮できるということを実証してくれました。そして、それぞれの委員会が素晴らしい働きをしてくれました。災害支援委員会では、広島豪雨災害、バヌアツ共和国を襲った台風被害、そして多くの犠牲者を出したネパール大地震に、素早くクラブからの義捐金を集めていただきました。そして、多くのクラブの皆様の善意の義捐金が集まりました事、あらためて感謝申し上げます。危機管理委員会では、全国に先駆けまして、危機管理に関する条文の整備、そして長年の悲願でありました危機管理に対応した保険の契約に漕ぎ着けました。研修委員会では「ロータリーの心と実践」の改訂版を発刊し、他地区からの問い合わせも多くいただいております。R財団委員会は多くの、地区補助金、

GGを実現し、新しくなったFVPの活用に貢献してくれました。社会奉仕委員会は、初めて、ローターアクトとの連携による献血活動をしていただきました。国際奉仕委員会は台湾でのGG実現のため、クラブへの呼びかけなどを行い、実現に大きく貢献いたしました。その結果、ロータリーフェスティバルに、3520地区より、感謝と報告に陳氏、林氏がご来阪されました。米山奨学委員会では、寄付の増加を実現し、支援国の見直しをいたしました。ローターアクト委員会は、ローターアクトによるサポートシステムを実施し、提唱クラブだけでなくクラブ、ロータリアンとの連携を深めました。インターアクト委員会では、ロータリーフェスティバルに清掃奉仕として協力をしていただきました。青少年活動委員会では、「ライラ」「ニコニコキャンプ」以外に「チームライラの育成」に力を注いでいただきました。青少年交換委員会では、従来5名の交換生のところ9名の交換を果たしました。そして職業奉仕委員会は「若手の会」研修をしていただきました。また、職業奉仕委員会の皆様と「職業奉仕」について論議しあったことは、今でも楽しい思い出であります。そして、クラブ奉仕部門の、会員拡大増強委員会、広報委員会はともに、「若手会」「ロータリーフェスティバル」を支えていただきました。あらためてすべての委員会の皆様に感謝申し上げます。そして今季で卒業

される委員の皆様方、本当にお世話になりました。

クラブ公式訪問では、すべての訪問において、歓迎をしていただきました事、感謝申し上げます。クラブ訪問の形として、個別に訪問する形と合同訪問の形と二通りあり、それぞれがそれぞれの長所があります、合同の場合はそれを機会として、クラブ間の交流をはかることが出来ます。同期のガバナーでもほぼ半数に分かれています。私は個々のクラブを訪問させていただく形をとりました。その結果、クラブの皆様とより近づいたと感じております。

クラブを訪問して、感じたこと、多くのクラブの感心ごとは、やはり、会員の増強でありました。会員の若返りも大きな課題であります。本年度、増強に関し、すべてのクラブで純増1名を目標としました。残念ながら、RI脱会のクラブが1クラブありました。会員総数は増員に向かっているようですが、地区の目標は未達成となりました。残念なことです。

もうひとつ感じたことがあります、それは、「職業奉仕」についての質問やご意見が少なかったことです。今後のロータリーが職業人を対象とするならば、この「職業奉仕」は最も重要な事柄であります。ポール・ハリス氏は「奉仕の活動はいろいろあるが、最も効果的なことは、職業をもって奉仕することである」と言っています。「職業奉仕」についても一度

じっくりと考え直すことが必要ではないでしょうか。そして、クラブで職業分類を充足することは、クラブの充実と会員の増強を図ります。様々な職業の会員がおられることにより、お互いに切磋琢磨することができ、様々な形の奉仕活動が実現できるわけであります。会員の増強を目的とするのではなく、様々な職業の方々が集う、つまり、クラブの職業分類を充足するためには会員の増強が必要であるという考えをすれば、むしろ会員の増強の目的、目標が明確になるのではないのでしょうか。

クラブ公式訪問やロータリーフェスティバルは、ガバナー補佐の方々の働き無くして、実現は出来なかったであらう。事前の訪問や、会長幹事会にて、地区とクラブのパイプ役を見事に果たしていただきました。クラブ訪問のみならず、各IMをご指導いただき、それぞれ特色のある素晴らしいIMが実現できました。感謝申し上げます。

このように、すべての皆様のおかげをもちまして、無事大役を果たさせていただきました。

そして、最後になりましたが、協力クラブの、大阪咲洲RC、大阪アーバンRCの皆様、川上代表幹事をはじめとする大阪帝塚山RCの皆様に、あらためて感謝申し上げます。